

資料室便り

交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

『鉄道きっぷ探究読本』

後藤茂文著／河出書房新社発行／2022年12月／
四六判／216ページ／1,672円（税込）

本書は、きっぷの概要、歴史、収集する楽しさ、および近年の状況などについてNHK記者がまとめたものである。JR各社では、「きっぷ」は乗客を運ぶ「乗車券類」を指し、「切符」は乗客以外の「モノ」を運ぶために使われ、「手回り品切符」などがある。日本では鉄道の開業当初、鉄道技術などとともにきっぷの仕組みについても英国流の形式が取り入れられた。開業当初は硬券の常備片道乗車券しかなかったきっぷも、時間が経つにつれ種類も増えていき、役割、見た目、材質など多岐な方法で分類できる多種多様なものとなり、愛好家の収集欲を駆り立てている。ICカードの普及やチケットレスでの乗車など技術の進歩や、コロナ禍という環境の急変により、紙のきっぷがなくなる事態が全国各地あいついでいるが、収集意欲をかきたてる「新線」、「新駅」、「名称変更」がらみのきっぷも登場している。古森□

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『車両の80年——国鉄80年記念写真集』

日本国有鉄道工作局編／交通博物館／1952年

鉄道開業150年を迎えた昨年は、各地で記念行事が開催された。そのさいには蒸気機関車や昭和時代の電車などの写真や映像も用いられたが、これらに登場した車両は、鉄道開業80年を記念して編集された本書でも紹介されている。図版

（写真）編、解説編の2部構成からなる本書は、鉄道開業時から1950年ごろまでの国鉄の車両（機関車、客車、電車、気動車、貨車）の写真613枚も用いて、その諸元や特色を解説している。国鉄や交通博物館（現・鉄道博物館）の関係者が中心となり、部外の鉄道研究者の協力も得てまとめている。一見するとカタログのような体裁をとっているが、写真で見る「国鉄車両発展史」である。資料室では、こうした写真を主体とした文献も所蔵している。土方□

■新着情報（2023年2月分）

- 1 感染症とソーシャルディスタンス——COVID-19による都市・交通・コミュニティの変容と設計 林良嗣、森田紘圭編 明石書店 2022年12月
- 2 東急百年——私鉄ビジネスモデルのゲームチェンジ 東浦亮典 ワニブックス 2022年12月
- 3 脱炭素・脱ロシア時代のEV戦略——EU・中欧・ロシアの現場から 池本修一、田中宏編 文眞堂 2022年11月 →続きの情報はホームページで

*上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、交通経済研究所資料室のホームページをご覧ください（QRコード参照）。入手した図書・雑誌がリアルタイムで確認できます。また、ホームページには月別の「新着図書目録」も掲載しています。



■資料室からのご案内

「資料室便り」は今月からコンパクトになり、情報をより凝縮してお届けすることとなりました。各種お知らせも、ホームページに掲載していきますので、併せてご覧いただければ幸いです。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳

*資料室の所在地などの詳細は、本誌目次の前のページに記しています。ご来室のさいにはぜひご確認ください。